

「すっかりアフリック」

JICAセネガル事務所メールマガジン 第89号

2014年1月13日配信

目次

◆巻頭言

「技術協力の意義と有効性」

- ・セネガル事務所所長
加藤隆一

◆活動紹介

「セネガルの観光セクターについて」

- ・所員 坪池明日香

◆われらが協力隊！

「子供達を見て想うこと」

- ・24年度3次隊
幼児教育 和田沙弥香

◆コラム・人紹介

「職業訓練の質の向上に貢献」

- ・セネガル日本職業訓練センター機能強化プロジェクト
専門家 世取山清

◆ひといき

「カーボヴェルデ国への新たな円借款の支援へ」

- ・所員 峰直樹

◆事務所より

- ・お知らせ
- ・人の動き 等

◆『巻頭言』 セネガル事務所所長 加藤隆一

「技術協力の意義と有効性～DAC 対日援助審査現地調査を通じて～」

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願
いいたします。

昨年12月、パリに本部がある経済開発協力機構（OECD）開
発援助委員会（DAC）の現地調査団を受け入れた。「対日援助
審査」と言ういかめしい名前の調査だが、英語ではDAC Peer
Review。DAC加盟国同士が相互にレビューをして援助の質を高
めていくことを目的とする「審査」である。各国が調査の対象
になるのは5年に一度程度。結果は報告書としてまとめられ、
指摘事項については改善が求められることになる。今回審査を
担当する国はフランスとオーストラリア。DACの事務方とともに
一週間の日程で現地調査が行われた。調査は大使館、JICA事
務所からのヒアリングに始まり、セネガル政府、プロジェクト、
地方自治体、市民社会、国際機関や二国間援助機関など幅広い
関係者から聞き取り、現地踏査を通じて行われる。今月、日本
における本調査、インドネシアでさらに現地調査が行われ、結
果を取りまとめて行くプロセスとなっている。

最終日、まだ審査の第一段階であるため、調査団からはKey
Impressions' という形での講評の説明がなされた。幸い全体的
に好意的な評価であったが、特に我々の技術協力が高い評価を

受けた。それは嬉しくもあり、驚きでもあった。技術協力に関する講評の概要は以下の内容であった。

「日本の技術協力モデルは堅固でよく実施されている。このモデルは日本がキャパシティー開発と技術移転を長期的な投資として実施してきたことを背景に形成されてきた。日本がプログラミングの際に用いた技術や専門性はニーズによく応えている。この技術協力のモデルはパートナーからも高く評価されている。また、プログラミングの段階から、いかにオーナーシップを助長し、持続的な出口戦略を策定するかについて注意深く検討がなされている」。

「日本の支援によるスケールアップのアプローチは非常にポジティブなものであった。教育プログラムに見られるように日本はセネガル政府と小規模なパイロット事業をデザインし、世銀のファイナンスを使ってレバレッジ効果を生んでいる」。

このような褒め言葉をいただいたのには特にプロジェクト関係者からのヒアリングが大きく影響したようだ。今回対応をお願いしたのは「教育環境改善プロジェクト第二フェーズ（PAES2）」。このプロジェクトは教員、保護者、地域住民からなる学校運営委員会を機能させることで教育のアクセスと質の向上を目指すプロジェクトであるが、リーダーの國枝専門家を中心とする日本人専門家チームが教育省カウンターパートに寄り添って、深い信頼関係の下、ともに悩み、考えながら、プロジェクトを運営、成果を上げていることが DAC の審査員の目には新鮮に映ったようだ。

私は二つの意味で今回の評価を感慨深く受け取った。一つは JICA の技術協力の意義が DAC によってポジティブに評価されたこと。私がパリに駐在し、日本の対 DAC 代表団の末席に座っていた 90 年代は「資金協力」のみならず、「技術協力」もアンタイトにすべきとの議論が盛んで、日本は劣勢に立たされていた（もちろんすべての技術協力がタイトである必要はないが）。日本の技術協力の付加価値とは何か、常に問われていた。そのため、日本は技術協力のあり方を検討するサブグループを DAC 内に作り、技術協力の成果の形式知化を図るなどして粘り強く働きかけてきた。その努力が認められたことが素直にうれしかったのだ。二つ目は、仏語圏における技術協力が評価されたこと。セネガルにおいて教育や保健の技術協力を開始したのは私が前回駐在していた 2000 年初頭。それまでは仏語人材がないという理由でセネガルへの支援は無償資金協力が中心であった。國枝専門家もも

もとは伝語人材ではなかったが、努力をされた結果、今や伝語の本丸である教育省で立派に専門家をされている。この10年間で若手の伝語人材の層が厚くなり、主要な分野で活躍されているが、その方々の活躍が「公式の場」で認められたことが誇らしかったのだ。國枝専門家が国際協力を志す契機になったのは湾岸戦争での日本の資金協力が国際的に評価されなかった「屈辱」であったと言う。あれから20年、専門家として日本の援助の最前線で高い評価を受けたことは実に誇るべきことである。

新年にあたり、セネガルで、あるいはアフリカでご活躍されている専門家、協力隊員のみなさんとこのストーリーを共有したい。

◆活動紹介

皆さん、セネガルにはユネスコの世界遺産がいくつあるかご存じでしょうか。実は文化遺産、自然遺産合わせて7箇所も登録されています。ここでは更なるセネガルの魅力についてお伝えします。これを読むと、セネガルに行きたくなるかも…？

～セネガルの観光セクターについて～ 所員 坪池 明日香

JICAは観光省調査計画局に専門家を派遣し、セネガルの観光セクター開発のための政策アドバイスをを行うと共に、「観光開発戦略（2014-2018）」の策定を支援しています。今回は戦略の中身というようなお堅い話ではなく、観光セクター担当がこれまでの1年半で開拓した、おすすめセネガル国内観光について書いてみたいと思います。

●北部（ロンプール、サンルイ地方）

ダカールからティエスを経由してサンルイまで4時間弱。途中、2005年に日本の無償資金協力により魚市場建設をしたロンプールという海辺の町があります。そこに、18km²のこじんまりした砂漠があります。砂漠の中にあるロッジが2つ(Lodge de Lompoul, Senegal Lodge)、海辺のロッジ(Africa Roots)がありますが、セネガルの他の地域に比べると宿泊施設はキャンプ並み（前後に安心してシャワーが浴びられるホテル・ロッジがある観光地を入れると良いと思われます）。おすすめは、砂漠のラクダツアーで、各ロッジで予約できます。日暮れの時間帯か、朝焼けの時間帯が光も砂漠もきれいでお勧めです。

サンレイでは、郵便飛行隊のパイロットであった星の王子様の作者サン・テグジュペリが定宿にしていたホテル(Hôtel de la Poste)や、エッフェル塔で知られるエッフェル氏が設計した橋があります。5月にあるジャズフェスティバルに行くと、同時開催されるアートめぐりをするのもよし、馬車に乗って2つの島（メインの島とラングドバルバリと呼ばれる漁村の島）をめぐるとも楽しい思い出となります。

現在は安全対策上制限されており、かつ訪問できる季節は限られます（11月半ば～4月下旬まで）が、ジュッジ国立公園で野鳥観測もマニアには堪らないプランかと思われます。越冬のために飛来する鳥でにぎわう公園内をボートに乗って1時間半のクルーズをしていると、ペリカンが一列になって飛ぶ姿や、大鷲が魚を足に持って木に止まっている姿等、雄大な自然を満喫することができます。

★参考価格：ロンプールの砂漠ラクダツアー（グループ・時間にもよるが、1人3000～10,000FCFA）、ジュッジ国立公園（入園料：車両1台5,000FCFA、大人1人2,000FCFA、ボート代：大人1人4,000FCFA）

●海辺（ソモン、サリー）

ダカールから南下すること2時間弱。途中のバンディア国立公園（高速道路を下りて30分もかかりません）は、動物が近くで見られ、基本的に草食動物なのでお子様も安心してサファリが楽しめます。お昼時には窯焼きピザが食べられるレストランに寄るのが定番（湖畔の席ではサルに注意）コースです。運が良いとサイ（園内に1組のみ）に出会えます。

ソモンにはオールインクルーシブの大型ホテル他小さなロッジが複数あり、サリーにも有名どころのホテルから小さなロッジまで選択肢は数多くあります。海辺に面したホテル、海辺ではないがプールやスパ等の施設が充実しているホテル等、選択肢が多くて悩むぐらいです。クワッドに乗って海辺を走行というアクティビティもあります。

★参考価格：バンディア公園（車両 1 台 1,000FCFA、大人 1 人 1,000FCFA、ガイド代：5,000FCFA※フランス語か英語か選べます）

●シネサルーム地域（ファティック州）

バオバブの木の上のロッジ(Coline de Niassam)、海辺のゴージャスロッジ(Royal Lodge)、小舟で渡った島のロッジ(Delta Niominka)、デルタに面したのんびりロッジ(Fimra)等、2泊程度ののんびりするなら手頃なホテル・ロッジが複数あります。途中で樹齢 850 年と言われる大きなバオバブがあり、真ん中に空いた穴からバオバブの中に入れます（バオバブの中に入って出てくる時は人間として再度誕生するという教えがあるそうです）。ホテルからのエクスカージョンとしては、小舟に乗ってマングローブ林を回る、小島に上陸して散策してローカルコミュニティ見学する、等の各ホテルが実施しているアクティビティがあります。

●ラックローズ（ダカールから高速道路を使って 1 時間未満）

パリダカールラリーの終着点として知られるピンクの湖。色がピンクになるのは夏時期（7 月～9 月頃）なのでこの時期が見頃。湖畔の Bonaba Café でお昼を食べるなら事前予約がベター。食後の運動もかねて、クワッドで砂丘めぐりしながらプチパリダカール気分を味わったり、馬に乗って砂浜を散歩するというプランもあります。

★参考価格：乗馬（12,000～15,000 FCFA）、クワッド（1 台あたり 30,000～35,000FCFA） このほか、ダカール周辺にも世界遺産のゴレ島、野鳥がやってくるマドレーヌ島、ピローグ（小舟）で渡るンゴール島等あります。

セネガルを訪問する観光客は年間 99 万 2 千人と言われており、まだまだ少ない上にヨーロッパからの訪問が主流（全体の 4 割がフランス）です。観光戦略においては、2016 年までに 150 万人、2018 年までに 200 万人の年間観光客数を達成しようとしており、今後観光プロモーションとインフラ整備に積極的に取り組んでいこうとしています。観光ネタに興味がある方は気軽に私までコンタクトください！

◆われらが協力隊！

教育分野では小学校で活動する隊員の他に、幼稚園で働いている隊員もいます。セネガルでは日本に比べ幼稚園に通う子供はとても少ないです。セネガルの幼稚園と日本の幼稚園の違いは？子供の違いは？セネガルの大阪（？）カオラックから和田先生の報告をどうぞ。

～子供達を見て思うこと～

和田 沙弥香

隊次：24年度3次隊

職種：幼児教育

任地：カオラック市

首都ダカールから南東へ192km、カオラックが私の任地です。大きなビルが建ち並びハイセンスな物も揃う首都ダカールが東京なら、人も車もバイクも多く、町中もごちゃごちゃとしていて、人々の活気があふれるこの街カオラックは大阪です。大きな街なので、みんなと顔見知り！というわけには行きませんが、そんな中でも道を歩けば名前を呼んで声をかけてくれるおばちゃんや子どもたちが少しずつ増えてきました。



おねえちゃんが大好きでいつも後ろをついて回るAちゃん

私がこのセネガルの大阪で幼児教育隊員として活動を始めて約1年が経ちました。セネガルでの幼稚園は小学校入学に備えて勉強をする場所であり、アルファベットの書き方やぬり絵の仕方、色や数などを学習させる役割を担っています。日本との幼稚園という場所の捉え方の違いに初めは戸惑うことも多く、どうしたものかと頭を抱えていました…いいえ、今でも思い悩んでいます。ただ、幼稚園のシステムや先生方の保育の仕方などは違って子どもは日本と同じ！恥ずかしがり屋の子やよく泣く子、何度怒られてもふざける子、甘え上手な子…こんな子いたな～、〇〇ちゃんそっくり！と日本で担任していた子たちの顔が浮かんでくることもしばしば。こんなに日本から遠く離れた国で同じ様な子どもたちの姿を見つけることができなにか嬉しくなってしまう。



学年末のお祭りで元気に踊る子供たち

そして、セネガルに来て時々耳にするのが“セネガルに来て子どもが好きになった！”“セネガルの子どもたちが日本の子よりかわいい！”という意見。私も初めはセネガルの子どもたちは素直で元気でかわいいな—なんて思っていました。最近ではもしかしたら日本にいた頃には忙しく余裕がなかったために、そう感じる事が少なかっただけなのではないかと思うようになりました。日本の子どもたちもセネガルの子どもたちも同じようにかわいい。だ

けど余裕がなくそれに気付けなかったり、そう思えなかったりしたのではないか、こころの余裕次第なのではないかということです。

ちょっと極端ですが、日本の児童虐待のニュースなどでよく耳にする“子どもがかわいく思えなくなった”という現象が、私たちが日本に居た頃は自分達にも少なからず起きていたのではないかと（虐待の場合はもっと複雑な問題も色々絡んでくるわけですが…）。

これからも出会っていくかわいい子どもたち、こころの余裕を持ってしっかりと関わっていきたいと思います！

◆人紹介

JICAのプロジェクトで働いてる専門家ってどんな方なんでしょう。今回は西アフリカの職業訓練の拠点として近隣国にも影響を与える職業訓練センターにて、人材育成に携わるベテラン専門家を紹介します。

～職業訓練の質の向上に貢献～

セネガル日本職業訓練センター機能強化プロジェクト 世取山 清 専門家

ダカール空港の近く、VDN道路沿いにある「セネガル日本職業訓練センター(CFPT)」は、1984年にわが国の無償資金協力により建設されて以降、技術協カプロジェクト等を通じて職業訓練指導員



の能力開発に対する協力がなされてきました。同校は産業界が求める人材に対応できるように、労働需要や職業訓練政策を踏まえつつ、学科の改編を行ってきました。2012年10月には、新たに建築設備保守科と重機保守科の2学科が新設され、この学科の指導内容の策定や指導員の育成、学科の運営支援のためのプロジェクト「セネガル日本職業訓練センター機能強化プ

ロジェクト」が2011年～2015年の4年間実施されています。

CFPTは現在管理部門12名、教官48名、その他のスタッフ約20名により運営されており、技術者資格取得（BTI、中学校卒業生対象、電気技術・機械技術・自動車整備技術部門、2年間）及び上級技術者資格取得（BTS、短大卒レベル、情報技術・自動制御技術・電子制御技術部門、3年間）を目的とした昼間/夜間コースを運営しています。就学者の1割弱が他国からの留学生であることや、毎年7月には第三国研修として仏語圏アフリカ15か国の職業訓練指導員を対象とした集団研修を実施している等、西アフリカ地域の職業訓練センターとしても重要な機能を果たしている学校です。

今回は、現在CFPTで実施中の技術協カプロジェクトのチーフアドバイザーである世取山専門家をご紹介します。

世取山専門家は職業訓練大学校（現職業能力開発総合大学校）を卒業後、民間企業の製造現場を経験した後、雇用・能力開発機構（現高齢・障害・求職者雇用支援機構）において長く職業能力開発業務に携わってこられました。これまで、成田、岡山、北海道、高知の各職業能力開発短期大学校及び職業能力開発総合大学校で指導にあたってこられました。

海外は、JICAの技術協力専門家として、エジプト、シンガポール、インドネシア、ケニア、イラン、アフガニスタン、オマーンでの経験があり、いずれの国においても職業訓練の質の向上に貢献してこられました。

2011年10月にダカールに着任されて以降、新設2学科の開設準備、指導員育成のための専門家派遣計画の策定、CFPTのニーズと日本側の協力リソースとのマッチング・調整に日々積極的に取り組まれています。週末の散歩とレストラン巡りにより、ディープな首都中心地区の達人でもあります。

◆ひといき

セネガルにいとカーボヴェルデは中心国の観光地というイメージなのですが、降雨量がとても少なく水不足に悩む国だそうです。安全な飲料水供給にむけての支援が始まりました。

カーボヴェルデ国への新たな円借款の支援へ

～日本の技術を活用し、安全な飲料水へのアクセス向上に貢献～

所員：峰 直樹

去る 2013 年 12 月 20 日、西アフリカの島嶼国カーボヴェルデ国との間で、新たな円借款契約に調印することができました。

このプロジェクトは、水不足が課題となっている、首都ブラリアのあるサンティアゴ島において、海水の淡水化施設および送水施設の建設を通じて、飲料水供給の安定化および安全な水へのアクセス改善を図り、もって同国国民の生活環境の改善および同国経済の活性化に寄与するものです。

カーボヴェルデ共和国は、アフリカ大陸西端に位置する大小 15 島からなる島嶼国です。同国の年間平均降水量は約 225 ミリメートルと非常に少なく、火山島群島であることから地下水のポテンシャルも限定的で、慢性的に水不足の状況にあります。このため、表流水や地下水の開発のみでは給水需要の充足は困難であり、海水の淡水化による飲料水供給能力の増強が望まれています。

本プロジェクトの需要予測では、完成時点（2019 年）で、給水能力が 4 万立方メートル／日に増強され、安全な水へのアクセス可能な人口が、15.1 万人（2012 年）から 27.4 万人（2020 年）に増加し、水道普及率は 54.6 パーセントから 95.0 パーセントに改善することが見込まれています。

また、海水淡水化分野での技術は、日本企業が技術的優位性を持っており（特に省エネ、高効率の淡水化技術等）、日本の技術に対する同国からの評価も高いことから、本事業は、同国向けの初の本邦技術活用条件（STEP）適用事業として実施される予定です。



円借款の署名を終え、握手を交わすクリスティーナ・ドゥアート財務大臣（左）と加藤隆一 JICA セネガル事務所長

◆事務所より

■ ■ お知らせ ■ ■

◆事務所休日等

- ・モハメッド誕生日（1/14）
- ・建国記念日(2/11)

◆研修・調査団

- ・一般財団法人 mundef メッセンジャー、岩本輝雄氏来訪（1/26-29）
- ・経理指導調査団（1/29-31）
- ・青年海外協力隊事業理解促進調査団（2/2-2/7）
- ・タンバクンダ州及びケドゥグ州保健システムマネジメント強化プロジェクト（PARSS）経験共有広域セミナー（2/6-7）
- ・円借款実施促進業務（2/9-2/28）
- ・タンバクンダ、ケドゥグ、マタム州村落衛生改善プロジェクト中間評価ミッション（1/19-2/7）
- ・ギニア：コナクリ市中部飲料水送水機能改善計画準備調査（2/10-2/20）

◆事務所内行事/会議等

- ・協力隊 24-3 次隊（5 名） 1 年報告会（1/17）
- ・協力隊 25-3 次隊（7 名） 壮行会(2/7)

◆人の動き

- ・着任：協力隊 25-3 次隊（7 名）、25-9 次隊（短期 3 名）（1/9）
- ・着任：川出健康管理員（1/15）
- ・着任：古賀企画調査員（1/25）
- ・離任：杉野企画調査員（1/29）
- ・着任：協力隊 25-9 次隊（短期/大学連携/関西大学/3 名）（2/11）
- ・離任：矢野企画調査員（2/15）

◆配信希望募集

セネガル発『すっかりアフリック』(月刊)の配信希望を承ります。ご希望の方はその旨「JICA セネガル事務所広報タスク宛」に下記お問合せ先メールアドレスまでお知らせください。

※セネガル滞在中の JICA 関係者の皆様…離任後はメールが配信されません。配信ご希望の方は、下記お問い合わせ先までお知らせください！

◆「すっかりアフリック」がセネガル事務所ホームページ内でもご覧いただけます！

<http://www.jica.go.jp/senegal/office/index.html>

◆記事投稿歓迎

記事の投稿を広く歓迎いたします（ただし掲載可否判断、校正等を編集部にてさせて頂くことがありますのでご了承ください）。皆さまからの興味深い記事をお待ちいたしております。

『すっかりアフリック(Suxali Afrique)』はウォロフ語で『アフリカの発展』を意味します。

発行元：独立行政法人 国際協力機構（JICA） セネガル事務所

お問合せ：sn_oso_rep@jica.go.jp

JICAセネガル事務所 URL <http://www.jica.go.jp/senegal/>
